



TAOS INSTITUTE JAPAN

明治大学国際ダイバーシティ研究所+岸研究室

TIJ Festival

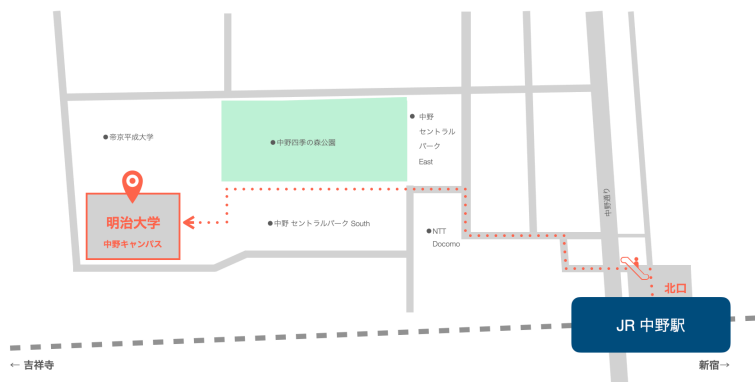
-タオス祭- 2024

研究者と実践者が共に創る社会

会場：

明治大学中野キャンパス

〒164-8525 東京都中野区中野4-21-1



スケジュール

9/14 (土)

10:15	会場・受付開始	5F
10:45 - 12:15	基調講演 「AI×社会構成主義」	5Fホール
12:15 - 13:15	昼食	
13:15-15:15	参加者自主企画（Aセッション）	
A1	渡邊誠 「AI（アプリシエイティブ・インクワイアリー）で チームのエンゲージメントを高めよう」	601
A2	古川晴歌 ビギナーズへの社会構成主義「的」座談会	602
A3	佐藤衛 ワークショップ：「新しい現実を生み出す 会話への招待」	603
15:30 - 16:30	参加者自主企画（Bセッション）	
B4	長尾彰 社会構成主義と大日向小中学校	601
B5	久保田真弓 言葉と身体で存在を捉えるワークショップ	602
B6	鮫島輝美 「いじめ」× 社会構成主義	603
16:30 - 18:00	情報交換会	

9/15 (日)

10:00	会場・受付開始	6F
10:30 - 12:00	全体会	603
12:00 - 13:00	昼食	
*13:00 - 15:00	参加者自主企画（Cセッション）	
*C7	Eli Walgrave 社会構成主を利用する教育の実践例：英語 の授業で関係性？	601
C8	久保田賢一 社会構成主義の観点から見た翻訳	602
C9	岩崎千晶 関係に基づく新しい教育評価の方法を考え る	603

*参加者自主企画Cセッションは、C7が2時間、C8、C9は1時間です。

○フロアマップ

1F

[https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/nakano/
6t5h7p00000eqbr5-img/map_1f_1_1.gif](https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/nakano/6t5h7p00000eqbr5-img/map_1f_1_1.gif)

5F

[https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/nakano/
6t5h7p00000eqbr5-img/map_5f_1_1.gif](https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/nakano/6t5h7p00000eqbr5-img/map_5f_1_1.gif)

6F

[https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/nakano/
6t5h7p00000eqbr5-img/map_6f_1.gif](https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/nakano/6t5h7p00000eqbr5-img/map_6f_1.gif)

基調講演

「社会構成主義とAI

(アプリシエイティブ・インクワイアリー)」

講演者：Diana Whitney博士

通訳兼ファシリテーター：Max Watanabe 渡辺誠

AI (アプリシエイティブ・インクワイアリー) とは人や組織の良いところを見つけ、それを活用して目標を達成する手法です。Taosの仲間であるDavid Cooperriderがはじめ、Dianaが実践しながら4DプロセスやAI哲学の原型を作りあげました。AIはポジティブ変革する方法です。人に元気とエネルギーを与え、目標達成をより楽しく容易にします。従来が出来ない原因を追究し、欠陥を改善するという方法とはまったく反対の方法で成果を創ります。

今回の基調講演では、社会構成主義がどのようにAIに影響し、AIを使うとなぜ自分の人生の開発や組織開発がうまく行くのかについて、その秘密を明かしてくれます。

基調講演) Diana Whitney博士 タオスインスティテュート創始者メンバー

Taos Instituteの同志であるDavid Cooperriderと共にAI (アプリシエイティブ・インクワイアリー) を創り上げた。AIを世界中に広め組織変革やリーダーシップ開発に永年貢献してきた。現在も、国際的に知名度も高く、講演で世界各地に招聘されている。AIやポジティブチェンジに関する著書多数。

通訳) Max Watanabe 渡辺誠 サクセスポイント株式会社 代表取締役。

AIを利用したポジティブ組織開発・人材開発の専門家。Dianaに師事し、2009年より15年間学び続けている。AIの普及をしており、AIの講座シリーズも22回を数える。2014年と2019年にダイアナを2度日本に招聘している。

参加者自主企画

A1 渡辺誠

『AI（アプリシエイティブ・インクワイアリー）でチームのエンゲージメントを高めよう』

Taos Institute創設者のひとりでAIの重鎮であるダイアナ・ホイットニーから学んだAIを日本文化に合わせて体験していただきます。AIで特に大切にしている哲学が社会構成主義です。AIは組織を活性化しチームの一人一人の自己効力感を高めるのに優れた方法です。組織やそこで共に仕事をする人達とのエンゲージメント（「絆」）を強める具体的な方法を実務家視点で提供します。ワークショップで体験してください。ファシリテーター：渡辺誠（Max Watanabe） AIの世界的権威ダイアナ・ホイットニーに従事。ダイアナから日本におけるAIの普及を任せられている。組織開発17年、人材開発25年の経験を活かし、組織開発で実績を残す。コ・ファシリテーター：鈴木愛子(Aiko Suzuki) 2019年ダイアナの来日時にこの世界に飛び込み組織開発・人材開発5年の経験を積んできた。中央大学大学院 Executive MBA卒業。ファシリテーター、コーチ、キャリアカウンセラーとして活躍中。

A2 古川晴歌・小松藍生・新屋智子

『ビギナーズへの 社会構成主義「的」座談会』

「社会構成主義について勉強してみたい!」「活用したいけどどうやって?」といった、ビギナーズ同士の座談会です。

私たちは去年のTIJ総会から月に一度「事例集のようなものをつくろう会?」というイベントを開催してきました。趣旨は社会構成主義を知りたい・活用したいという人同士が集まり、ゆるやかに実践報告を行うものです。

今回は、この1年間集めた多様な「実践」をダイジェストでお伝えするとともに、特にビギナーズが迷う「これって社会構成主義って言えるんだろうか?」といった小さな取り組みをプレ懇親会のような雰囲気、皆さんで共有しあえる時間にしていきます。

ビギナーズ以外の方も、迷われてる方も、是非ご参加ください!

A3 佐藤衛・飯島 邦子

『ワークショップ：「新しい現実を生み出す会話への招待」』

社会構築の理論は、現実を「関係」という視点で捉え直し、新しい現実を共に創り出すことを提案しています。ガーゲンの「関係の世界へ」では、教育、医療、組織などでの関係を重視した取り組みが紹介されていますが、こうしたさまざまな分野で何かを生み出すには、新しい形のリーダーシップが必要なのではないかと思います。

ガーゲンは、私たちの仕事や活動の大部分が「会話」によって成り立っていることに注目しています。そして、その「会話」を変化させ、新しい可能性を共に生み出すことが重要なコミュニケーションスキルと考えます。このスキルは特定のリーダーだけでなく、誰もが身につけてそれぞれの立場でリーダーシップを発揮することが可能です。このワークショップでは、ヒエスウッドとガーゲンの著書「Relational Leading」（2013年）を紹介し、グループでの会話を通じて新しいリーダーシップの可能性を探究します。

B4 長尾彰

『社会構成主義と大日向小中学校』

「社会構成主義と大日向小中学校」の実践報告では、イェナプラン教育の理念を起点に、大日向小中学校での実践例を紹介します。特に、社会構成主義の視点から、学校の教育活動とコミュニティ形成がどのようにリンクしているかを深掘りします。実践の中で見られる学びの共同創造や対話の重要性を強調しつつ、今後の課題と展望についても触れていきます。現場の実情を反映したリアルな報告です。

B5 久保田真弓

『言葉と身体で存在を捉えるワークショップ』

K.J.ガーゲンの著書『あなたへの社会構成主義』などを読むと「西洋文化に属する私たち」という表現が多数出てきます。ガーゲンは、個人主義の立場から自己（self）を見直し「関係規定的存在」という概念の重要性を提示しています。そうであるならば英語ではなく日本語を日常語とする私たちの観点から関係規定的存在と言うものを考えてもよいのではないのでしょうか？

本セッションでは日本語の特徴を生かしたアクティビティを体験することで「言葉と身体を介して存在の意味」を改めて皆で話し合ってみます。座ってやりますのでどうぞお気軽にご参加ください。参加者間のシナジー効果により楽しみながら学び（気づき）が深まることと思います。

B6 鮫島輝美・ハツ塚一郎

『「いじめ」× 社会構成主義』

社会構成主義では、4つのテーゼ（Gergen, 1999/2004）にあるように、私たちが世界や自己を理解するための「言葉」が非常に大切だと考えています。具体的な現象にどのような言葉を使うのか、どういった表現を使うことで、現実の意味を生成するのか、また、私たちが、何かを記述したり説明したり、あるいは別の方法で表現したりするとき、同時に私たちの未来をも創造している、このような感性を持つことが大切です。今回は、こうした「言葉」に関する感度の高い研究をしてこられた熊本大学大学院のハツ塚先生の「いじめ」に関するマクロ言説分析から学び、複雑で対応が難しい現象に対する具体的なアプローチについて皆様と一緒に考える機会としたいと思います。たくさんの方々の参加をお待ちしております。

C7 Eli Walgrave

『社会構成主を利用する教育の実践例：英語の授業で関係性？』

大学の英語が必修科目なんですけど、皆の技能や遠近法がそれぞれ違います。教科書通りにすると、必ずうまくいかないはずですよ。皆がちゃんと参加できて学習できるように授業を作れますか？今回は関係性を利用して対話ができる英語授業を試してみましょう！（英語初心者でも参加できますよ！）

C8 久保田賢一・佐藤衛・吉田信介・米田利彦、

『社会構成主義の観点から見た翻訳』

本セッションでは、タオスインスティテュートが発行している本「Reational Leading: Practices for Dialogically based collaboration」を翻訳しているグループが、翻訳を行ったプロセスについて発表します。生成AIを活用し翻訳したものを5名の参加者によりディスカッションを重ねています。この翻訳のプロセスは、まさに人と生成AIとの協働作業であり、その中でさまざまな発見があり、いろいろなアイデアが浮かび上がってきました。翻訳に携わった人たちがどのような活動をし、どのような課題に直面したのか、それをどのように解決していったのか、翻訳体験を語ってもらい、参加者とともに「社会構成主義の観点から見た翻訳」とはどうあるべきか話し合いたいと思います。

C9 岩崎千晶・東村知子・鮫島輝美

『関係に基づく新しい教育評価の方法を考える』

従来の教育ではテストによる評価が行われており、ガーゲン氏の著書「関係の世界へ」ではこれを「教育の産業モデル」だと指摘し、それに代わる評価方法として「関係に基づく評価」を提案しています。「関係に基づく評価」は実際にどのようなもので、カリキュラムデザインや授業設計をする際に、「関係に基づく評価」をどう組み込むことが望ましいのでしょうか。本ワークショップの前半では、従来の評価から「関係に基づく評価」へ移行するにあたっての事例紹介をし、「関係に基づく評価」を行うための具体的な方法についてセッション企画者によるトークセッションを行います。後半は参加者の置かれた文脈における「関係に基づく評価」の導入に関して意見交換をします